

NATIONAL
UNIVERSITY
ADMISSION
CENTERS



国立大学アドミッションセンター
連絡会議ニュース

第6号
2009年1月

国立大学アドミッションセンター連絡会議 第6回総会開催

平成20年（2008年）5月25日14時から、東京都新宿区の新宿住友ビル47階の会議室において、国立大学アドミッションセンター連絡会議第6回総会が開催されました。

今回の総会には、加盟21大学（平成20年度から加盟予定の2大学を含む）及びオブザーバーの3大学（山形大学、新潟大学、琉球大学）と大学入試センターから計68名が出席しました。また、来賓として文部科学省から高等教育局大学振興課大学入試室の先崎卓歩室長、下敷領強室長補佐、小笠原千寿係長をお迎えし、先崎室長にご挨拶をいただきました。

総会では、横浜国立大学と岡山大学の2大学の新規加盟の承認、会則の改正、会費の改正及び事務局からの報告に引き続いて、大学からの報告としては岡山大学アドミッションセンター副センター長の垂水共之教授から「岡山大学およびアドミッションセンターについて」の報告があり、これに関連して各大学のアドミッションセンターの現状等についての質疑応答や討論が行われ、16時に閉会しました。

以下は、総会議事要録、総会における会長及び来賓挨拶の要旨です。紙面の都合上、全文掲載できませんことをご了承くださるようお願いいたします。



国立大学アドミッションセンター連絡会議 第6回総会議事要録

日時	平成20年5月25日（日） 14時～16時
場所	新宿住友ビル47階 住友スカイルーム A-2
出席者	加盟大学からの出席者及びオブザーバー出席者 計68名
来賓	文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長
陪席者	文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室 室長補佐、入試第一係長

議 事

議事に先立ち、会長及び来賓から挨拶があった。

(1) 新加盟の承認について（柴田会長）

横浜国立大学大学教育総合センター及び岡山大学アドミッションセンターからの加盟申請について説明があり、承認された。

(2) 会則の改正について（柴田会長）

新加盟機関の承認及び下記機関の改組・名称変更に伴い、資料1のとおり会則の改正を承認した。

(新) 鳥取大学入学センター（平成19年6月1日変更）

(旧) 鳥取大学アドミッションセンター

(3) 事務局からの報告（武谷事務局長）

① 会計報告について

連絡会議運営費規程第4条の規定により資料2に基づき会計報告が行われ、承認された。

② 幹事について

昨年の総会で幹事2名を増員することが承認され、下記の2名に会長が委嘱したことが報告された。

京都工芸繊維大学 大嶋 知之 教授

広島大学 杉原 敏彦 教授

(4) 大学からの活動等報告について

岡山大学垂水教授から、「岡山大学およびアドミッションセンターについて」というテーマで報告があった。

(5) その他

① 連絡会議運営費の改定について

連絡会議運営費規程第2条第3項に規定された会費の金額を20,000円に改定することが承認された。

挨拶要旨

国立大学アドミッションセンター連絡会議会長

柴田 洋三郎



皆様、こんにちは。本連絡会議の会長を仰せつかっております、九州大学の柴田でございます。

本総会も今年で6回になりまして、本日はかりゆしを着ておられる方もおられますから、全国各地、北海道から沖縄まで、梅雨模様のところをお見え頂きました。幸いにもこの会が開かれる1時間前くらいに雨も上がりまして、大変さわやかな超高層ビルの眺めの良い会場で本日の会を開くことになりました。

この会は、昨年まで19校の加盟で、オブザーバーが4校だったのですが、本日議事にもかかりますが新たに2校の加盟がございまして、21校ということになります。ご参加の方も70名を超えています。この会が発足した当時は、入研協一日目の午前中に開くというささやかな会だったのですが、だんだんと立川から松山、静岡、それから昨年から新宿に進出したしまして、NSビルの確か4階ぐらいであまり眺めが良くなかった、今回は、47階ということで、10倍以上高いところから眺めて、全国のAOの諸々のことについて議論を交わすという貴重な機会になります。

特に本日は、昨年に引き続きまして、文部科学省大学入試室の先崎室長様、下敷領室長補佐様、小笠原係長様にご列席をいただいております。

アドミッションオフィス入試も年々普及いたしまして、10年ぐらい前に発足したときには、細々というか、3大学の国立大学で始まったんですけども、集計等によりますと、私立大学を合わせますと、今年度4万7千人、大学入学者の8%くらいになっていると伺っております。推薦入試、AO入試、日本ではあまり区別がはっきりしないと苦情もありますが、それでだいたい大学入学者の4割を超え、25万人くらいが一般入試以外の方式で入っている現状でございます。

こういう具合にだんだん普及していきますと、社会的にもいろいろ注目を集めておりまして、特に、私立大学のAOと国立大学のAOと一緒にされて、いろんな苦言が出ているのも事実でございます。おそらく、国立大学の場合には、殆どが的外れだと思っておりますけれども、それにつきましてもやはり今後AO入試という今までの日本の入学者選抜になかったような方式、それを普及させるためにもあらぬ疑念を払拭できるように、とりわけ国立大学のAOにおきましては日々努力しておられると存じますが、さらに一層、制度的に整備していく

必要があらうと思っております。

その一例として、今年の初め、プレテストなどをやってはどうかと、中教審の部会から出てきております。まあ、今後どういう推移をとるのかは定かではありませんが、そういう議論が出てきた理由のひとつとしては、教育改革会議等々で出ていました、入試センター試験の複数回の受験、あるいは過年度、過去の成績を利用する等々、チャンスを増やすという議論がございました。大学入試センターでの改善会議等々で議論したところ、ひとつの全くの試案としまして、今のような入試センター試験を同じ年に複数やるというのではなく、やるとしたら、夏ぐらいに別の性格をもったものをやってはどうかとなりました。そこまではよかったのですが、それから先に、それならAOにも使えるねという話もでしたが、それは全く付随的なお話であります。AOにすべてそれを課すというものではないと思っていたのですが、だんだんと話が一人歩きして、AO・推薦入試用の試験としてやってはというような話になっているようでございます。

今後どう推移していくかは見通しが見えないところですが、そういう議論が出てくるということは、多様な選抜が行われるにつれまして、大学に入ってきている生徒さんの資質がいろいろと問題になっている反映だと思えます。大学全入時代ということになって、一応、収容人員と入学者についてはほぼ均衡が取れていて、大学に入学したい人はいずれかの大学には入れる状況にございます。そうなりますとやっぱり入った後の学力が問題になってきたのだと思えます。

今までは、主に高大連携という話の場合には、高校の先生方が大学入試のあり方などについていろいろとご意見を述べるということが多ございまして、端的には大学入試の改善ということに社会的な意見として集約されていた訳でございます。その帰結として、AO入試などが提案され実施されてきたところです。しかし現在では、国立大学協会の入試委員会等々の議論では、今からは、どうも大学の方から、中等教育、高等学校の教育内容についてもう少し要望を出してもいいのではないかと、どうもベクトルが反対側に向いてきたような状況になってきました。従来、高大接続というのは、高校生を受け入れる大学の方からすれば、選抜の機会だけという認識でしたが、やはり社会的な状況といた

しましても、もうちょっと踏み込んで、高校の方は大学の方向へ要望を出しますし、大学のほうからも高校の教育に対して、あるいは教育の現場に対してもっと具体的な要望、要請を出して、中等教育と高等教育の連携というのをより実質的なものにした方が、日本の教育体制がもっと効果的になるのではないかという議論も出ております。そういう場合に、本来は選抜の機関という位置づけでのあったAOも、今後は大学教育を受ける人を受け容れる入り口として、高校の方に対しても、大学の窓口、あるいは、大学からの情報の発信機関としての役割がアドミッションセンターに今後益々期待されてくることだと感じております。

皆様方に置かれましても、そういうわけで、まずAO入試を円滑に実施する機関として、アドミッションセンターは設置されたところでありますけれども、今後はそれに加えて高大接続をより実質化していく、実効のあるものにしていく窓口機関としての機能も今後増えてくると感じます。どうぞ、皆様方、本日はお集まりの各大学におかれましても、そういう観点から、色んな取り組みをやっていただき、この連絡会議にご報告いただけるようになれば、国立大学に留まらず日本の大学教育、あるいは中等教育と高等教育の接続というのがよりスムーズになろうかと思えます。特に、少子化の時代を迎え、今後は量よりもむしろ質を如何にしてあげていくかという問題に大学は直面しているわけですので、そういう意味でも、アドミッションセンターの果たす役割というのが今後益々増していくものと考えております。

本日は貴重な機会でございますので、ぜひそういうところまで踏み込んだ議論が皆様方とできればと思っております。短い時間ではございますけれども、毎年1回の機会でございますので是非、本日の議論が実りあるものになるようにお祈りいたしまして私からのご挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

ご挨拶要旨

来賓 文部科学省 大学入試室長

先崎 卓歩



本日お集まりの国立大学入試ご担当者におかれましては、日頃より大学入試の円滑な実施及びその工夫・改善に多大な御尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

大学入試は、常により良い方途を求めて、不断の努力を続けていくべき重要な課題であり、これまで、共通第1次学力試験、またこれに続く大学入試センター試験が導入され、各国立大学におかれては、センター試験と個別試験を組み合わせ、推薦入試やAO入試の導入により、入試方法等の工夫・改善が進められてきたところであります。

本日は、この場をお借りし、本年3月25日に中央教育審議会大学分科会に同分科会制度・教育部会から報告された「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」のうち、大学入試に関する部分についてご紹介をさせていただきたいと思っております。

ご承知のように、これまでの大学入試の改善は、過度の受験競争を緩和するという観点に立って進められてきました。しかしながら、近年、少子化と大学の入学定員の拡大が進行することに伴い、大学・短期大学の志願者のほとんどが入学できる状態になってきているなど、大学入試を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。

こうした、いわゆる「大学全入」時代においては、入学をめぐる激しい競争が行われる選抜性の強い一部の大学を除き、総じて大学入試の選抜機能が低下し、入試をすれば一定の学力水準を把握できるという前提は成立困難な状態となりつつあります。また一方では、高校においても、大学入試の選抜機能の存在を背景とした大学進学希望者の指導や学習意欲の喚起が困難な状態となるなど、入試方法の改善では解決できない問題も指摘されており、このまま、高等学校教育の質保証と大学の入口管理を大学入試の選抜機能に依存し続ければ、高校及び大学双方に重大な影響を及ぼすおそれがあります。

このような状況を踏まえ、今回の「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」では、今後、高校と大学は、入試によって大学進学希望者の学力水準を担保できるという考え方から、様々な方法で大学進学希望者の客観的な学力を把握し、それを高校の指導改善や大学入試、大学の初年次教育の基礎資料として役立てていくことを通じて学力水準の向上を図るという考え方へ転換し、「選

抜」だけでつながる関係から、共に力を合わせて取り組む関係へ変化することが必要であるとしています。

このような認識の下に、「審議のまとめ」では、大学入試の改善に関して、主に次のような具体的な提言を行っています。

まず一点目として、各大学が高校で履修すべき科目や取得が望ましい資格など「何をどの程度学んできてほしいか」をアドミッション・ポリシーに明示することです。アドミッション・ポリシーの明確化については、これまでも、大学審議会答申等で提言されてきたところですが、依然として、抽象的な記述が多く、大学と受験生とのマッチングを図る観点から、求める学生像だけでなく、高校段階で履修すべき科目や取得が望ましい資格を列挙するなど、最低限「何をどの程度学んできてほしいか」を明示することが必要と提言されております。

続いて、二点目として、推薦入試・AO入試の改善です。「審議のまとめ」では、いわゆる「大学全入」時代が到来する中、詳細な書類審査や時間をかけた丁寧な面接等によるきめ細かな入試という、推薦入試やAO入試本来の趣旨に添った運用がなされている大学がある一方で、外形的・客観的な基準に乏しく、事実上「学力不問」となっている大学もあるのではないかと指摘もなされています。今後は、「人物重視」と「学力把握」をどう両立させていくかが重要な課題となると思われます。このような認識の下、「審議のまとめ」では、推薦入試・AO入試の改善方策として、

- ・高校・大学の接続を密にする観点から、調査書の積極的活用を促進すること
- ・いかなる入試方法であれ、基礎学力の把握が適切に行われるべきとの認識に立った学力把握措置を講ずること
- ・AO入試の実施時期のルール化を図ること など

が提言されております。

また、「審議のまとめ」では、高校段階の学力を客観的に把握する方法の1つとして、高校の指導改善や大学の初年次教育、大学入試などに高校と大学が任意に活用できる「高大接続テスト（仮称）」について、今後、高校・大学関係者間で協議・研究が行われることへの期待が示されています。

以上、「審議のまとめ」の大学入試分をかいつまんでご紹介させていただきましたが、学士課程教育の在り方については、「審議のまとめ」を踏まえ、今後、大学分科会及び中央教育審議会総会での議論を経た後に、文部科学大臣に答申される予定です。また、答申がなされた後には、その趣旨を、毎年通知しております「大学入学者選抜実施要項（高等教育局長通知）」に反映することとなります。

大学入試は、各大学がそれぞれの教育理念・教育内容にふさわしい学生を選択するためのプロセスであり、大学教育の第一歩としての重要な位置を占めるものです。本日、ご臨席の皆様方におかれましては、引き続き、入試改善へのご努力をお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

大学
からの
報告

岡山大学およびアドミッションセンターについて

岡山大学アドミッションセンター 副センター長 垂水共之

大学からの報告として標題の発表が、次ページ以降のスライド（パワーポイント）を資料に行われた。発表の内容は、岡山大学の沿革と概要、地の利、アドミッションセンターの構成・機能・業務、広報活動や入学説明会等、入試業務特に出題関係、調査研究などセンター機能の全般にわたった。特に調査研究に関しては、入学者アンケート、合否入れ替わり率、入試科目成績、学内成績など、統計データを用いたかなり詳しい報告がなされた。

垂水教授からの報告発表の後、柴田会長の司会により、この発表に対する質疑応答が行われ、


- ・入学者アンケート
- ・企業主催の進学説明会への参加
- ・調査研究のセンター内での分担

に関して質問と回答があった。

岡山大学からの報告発表に引き続き、30分ほどの残り時間を使って、柴田会長の司会により、各大学からの問題提起や質問など意見交換の場が設けられ、

- ・大学受験生の地域間移動
- ・学生やOBを使った高大連携の企画例
- ・高大接続テストについて
- ・アドミッションセンターと学部の関係
- ・入試センターの大学院入試との関係と関わり

などについて、質疑応答や各大学からの事例報告を基に、活発な情報交換・意見交換が行われた。



岡山大学
および
アドミッションセンター
について


岡山大学AC
副センター長 垂水 共之

沿革


- 岡山藩医学館 岡山医科大学
- 第六高等学校
- 岡山師範学校
- 岡山農業専門学校

↓ 昭和24年(1949年)


岡山大学 創立59年



岡山大学の規模




- 11学部+1コース
 - 文・教・法・経・理・医・歯・薬・工・環・農+MPコース
- 7研究科+1連合大学院
 - 教育学
 - 社会文化科学
 - 自然科学
 - 保健学
 - 環境学
 - 医歯薬学総合
 - 法務(法科大学院)
 - 連合学校教育学(兵庫教育大学)



- 学生定員
 - 1年次 2185名
 - 3年次編入 80名(理、医、歯、工)
- 在学生 10749名
- 大学院
 - 前期課程、修士課程 800名
 - 後期課程、博士課程 277名
 - 法務研究科 60名
 - 連合大学
- 在学院生 3430名

平成20年度入試の結果
(平成20年4月入学者のための入試)



- 入学定員 2,185人
- 志願者数 7,031人
3.22倍 (前期:2.4 後期:8.5)
- 入学者数 2,345人 (北海道から沖縄まで)

岡山県	33%	743人
近畿地区	24%	527人
四国地区	21%	468人
中国地区	19%	428人
現役	82%	1,928人
女子学生	42%	993人

5

入学者が多い都道府県(平成20年度)

入学者数

都道府県	平成19年度	平成18年度
岡山県	743名	771名
兵庫県	365名	352名
愛媛県	207名	215名
広島県	174名	179名
山口県	112名	148名
香川県	110名	96名
徳島県	106名	90名
鳥根県	79名	79名
鳥取県	63名	65名
高知県	45名	52名
京都府	45名	48名
大阪府	45名	38名
高知県	42名	36名
京都府	33名	36名
福岡県		36名



6

地の利



- 岡山大学津島キャンパス
岡山駅から北に約2km
緑豊かな広大なキャンパス
- 岡山大学鹿田キャンパス
岡山駅の南、約1km
- 岡山後楽園
日本三名園の1つ
岡山駅の東、約1km



地の利

中・四国地区の県庁所在地より
JR乗り換えなし




岡山大学アドミッションセンター

- H16.04 センター設立(学内措置、専任なし)
- H17.04 専任教員3名(教授2、助教授1)
+センター長(理事・副学長)
+副センター長(兼任)
- H17.秋 最初のAO選抜(H18年度入試)
- H20.04 センター長(兼任)+専任3名
(入試課6名+非常勤1名)



岡山大学ACの業務

(センター規定より)



- 入学者選抜に係る**企画・立案及び実施**に関すること
- 入学者選抜方法の**調査研究**に関すること
- 入試情報、大学紹介**情報等の提供**に関すること
- 大学公開説明会、学外説明会等の学生募集**広報活動**に関すること
- 入試**問題作成**の統括に関すること
- 入試問題の点検等**入試ミス防止**の統括に関すること
- 大学入学者選抜大学入試**センター試験**に関すること
- その他入試の実施に関し、必要な事項

岡山大学ACの業務



- 入試全般
 - (AO選抜を含む)AO選抜のための組織ではない
 - 学部入試だけでなく、大学院入試も?
- 広報
- 実施
- 出題
- 調査・研究

広報活動



- 進路指導担当者入試説明会
(岡山+3ヶ所、5月)
- 教育と入試説明会(岡山、6月)
- オープンキャンパス(岡山、8月)
- 学外オープンスクール(学外8ヶ所、6月)
- 進学相談会(岡山、8月、9月の2回)
- 共同説明会(6回)
- 業者主催の説明会(20回程度?)

入試説明会等



- 教育と入試説明会 6月24日、午前、午後2回
- 学外オープンスクール
 - 津山(6月20日)、徳島(6月23日)、高松(6月23日)
 - 姫路(6月25日)、鳥取(6月29日)、松江(6月30日)
 - 福山(7月6日)、松山(7月7日)
- 国立大学合同説明会等
 - 福岡(7月22日)、大阪(7月27日)
 - 高松(8月25日)、神戸(10月8日)
- オープンキャンパス 保護者向けの説明会も
 - 全学部 8月2日、3日
 - 工学部 8月1日
 - 環境理工学部 8月6日
 - 理学部 11月23日
- 進学相談会(個別相談を中心に)
 - 岡山大学にて
 - 8月26日(日)、
 - 9月24日(月、旗日)



岡山大学の入試(平成21年度)

	AO I II	推薦 I II	前期	後期	社会人	専門高校	計
文学部		20	125	30			175
教育学部	96		184				280
法学部	20	7	145	40	13		225
経済学部		55	149	36	5		245
理学部	35		102			3	140
医学部・医			80	15			95
医学部・保		32	100	20		8	160
歯学部		15	30	10			55
薬学部	14		56	10			80
工学部		103	298	59			460
環境理工学部	22	8	110	10			150
農学部		18	80	22			120
MPコース	(15)						(15)
選抜別 計	187	258	1459	252			2185
	9%	12%	67%	12%			

入試の実施




- 試験実施本部
 - AO選抜(10月末)
 - AO選抜、推薦選抜(12月)
 - センター試験(1月)
 - AO選抜、推薦選抜(2月)
 - 一般・前期日程(2月)
 - 一般・後期日程(3月)
- 合格者の決定
 - 定員超過率
- 準備
 - センター試験監督代表者会議(12月)
 - リスニングテストの説明・予行演習
 - センター試験問題の袋詰め
 - 個別学力試験監督代表者会議(1月)
 - 個別学力試験問題の袋詰め

出題



- 個別学力試験の出題の統括
 - 出題委員長会議
 - 学外印刷と学内印刷 作成要領
 - 科目間の重複のチェック
 - 指導要綱とのチェック
 - 印刷
 - 問題受け取り
 - 持ち込み
 - 初校
 - 再校

調査研究




岡山大学


- 新入生アンケート
- 合否入れ替わり率
- 追跡調査
 - AO選抜、推薦選抜合格者と一般選抜合格者の比較


岡山大学、学部・学科の志望度 (新入生アンケートより)

Q1 岡山大学が



Q2 学部・学科が

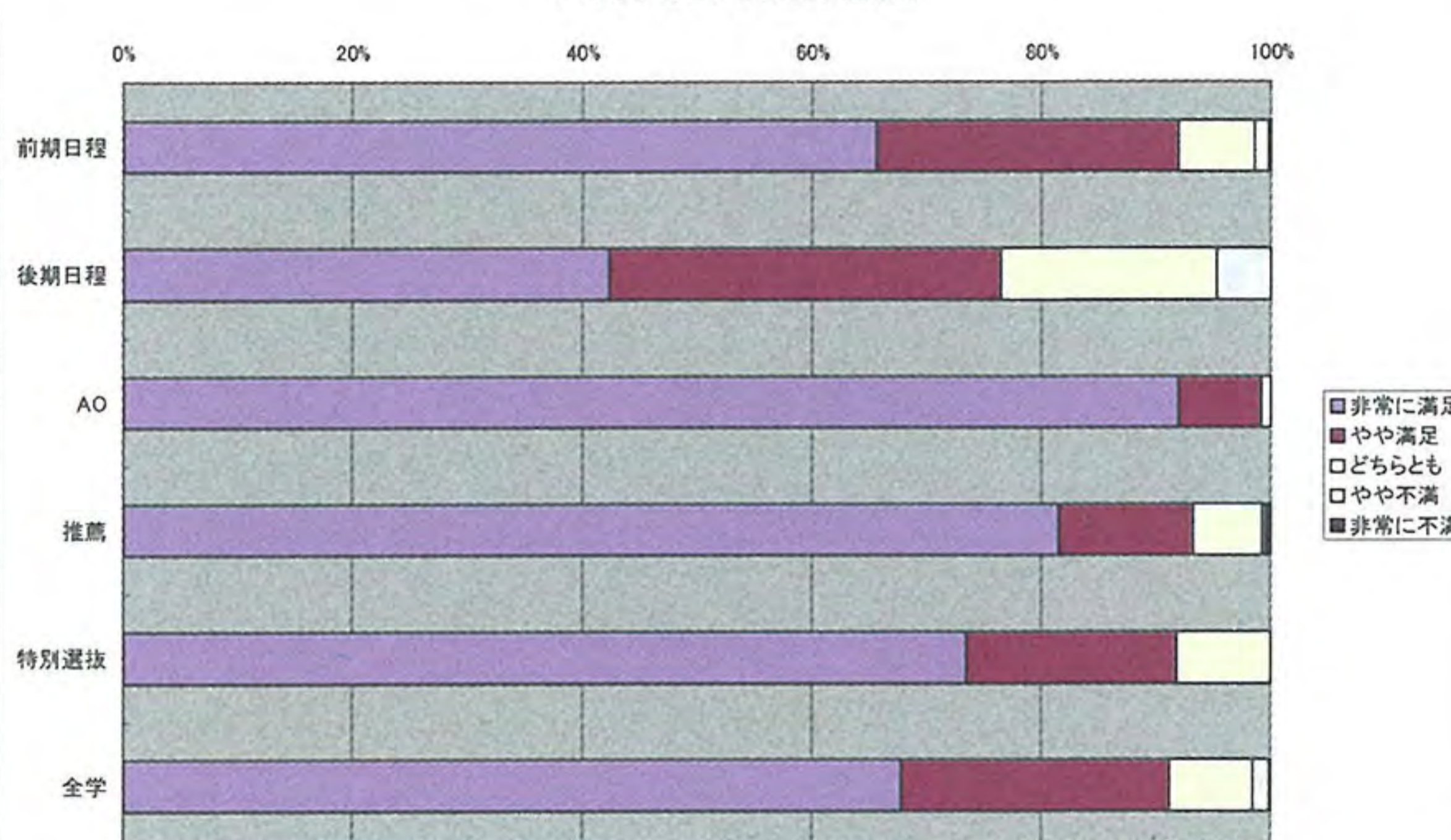




岡山大学

岡山大学に入学した気持ち

Q10 岡山大学合格した気持ち(選抜別)

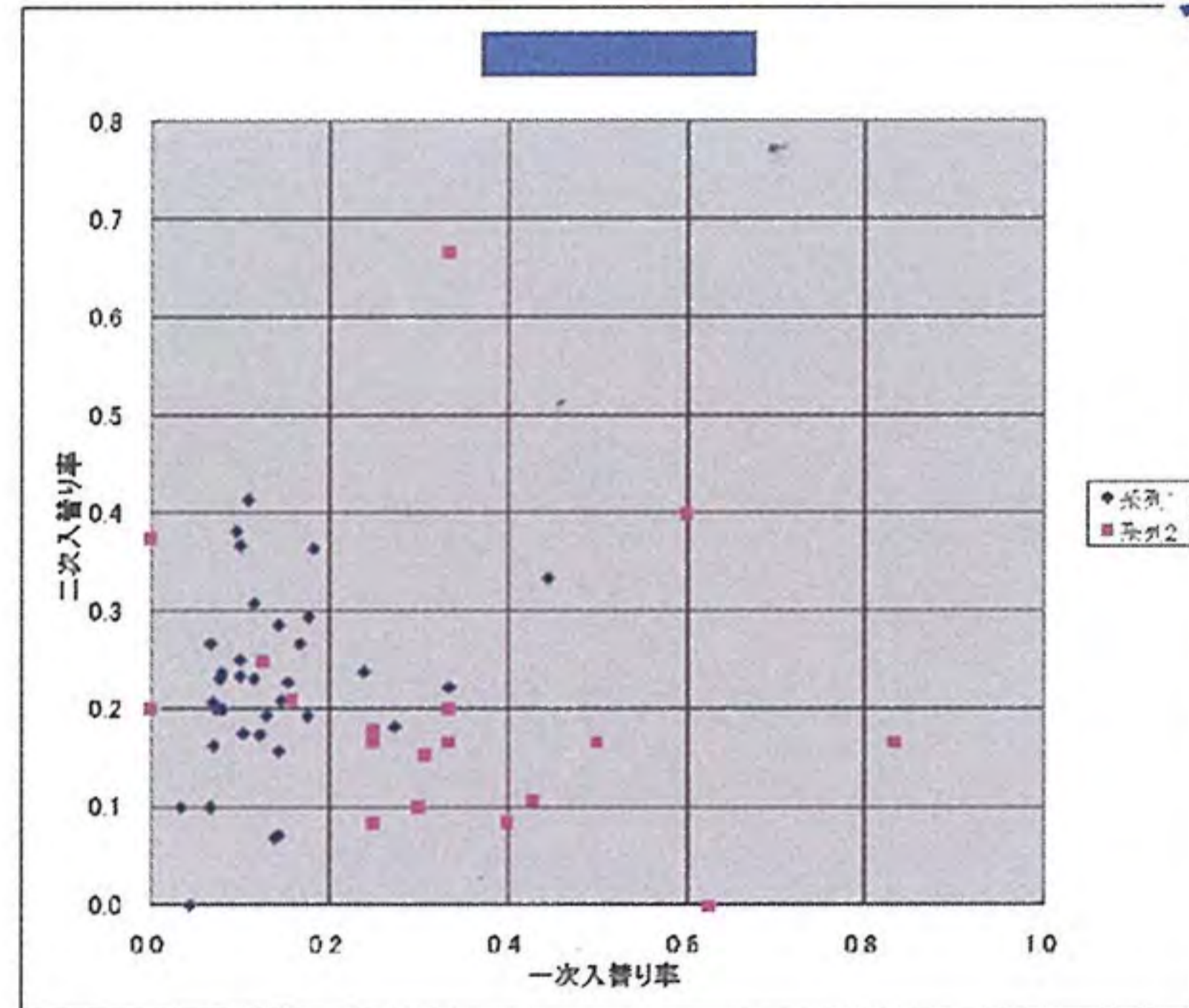


0% 20% 40% 60% 80% 100%

前期日程
後期日程
AO
推薦
特別選抜
全学

非常に満足
 やや満足
 どちらとも
 やや不満
 非常に不満

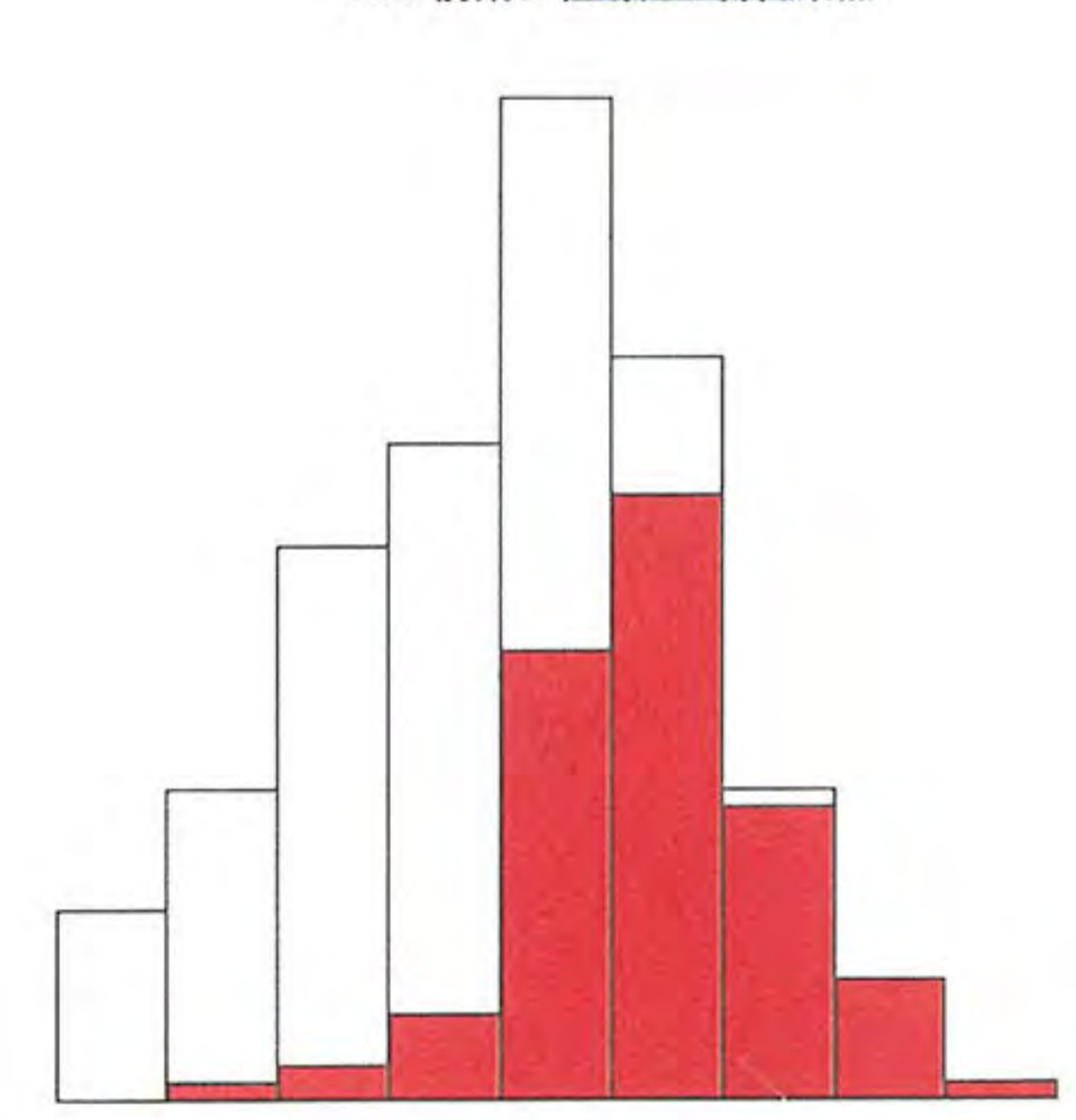
入れ替わり率




岡山大学

A学部

H20 前期日程 素点

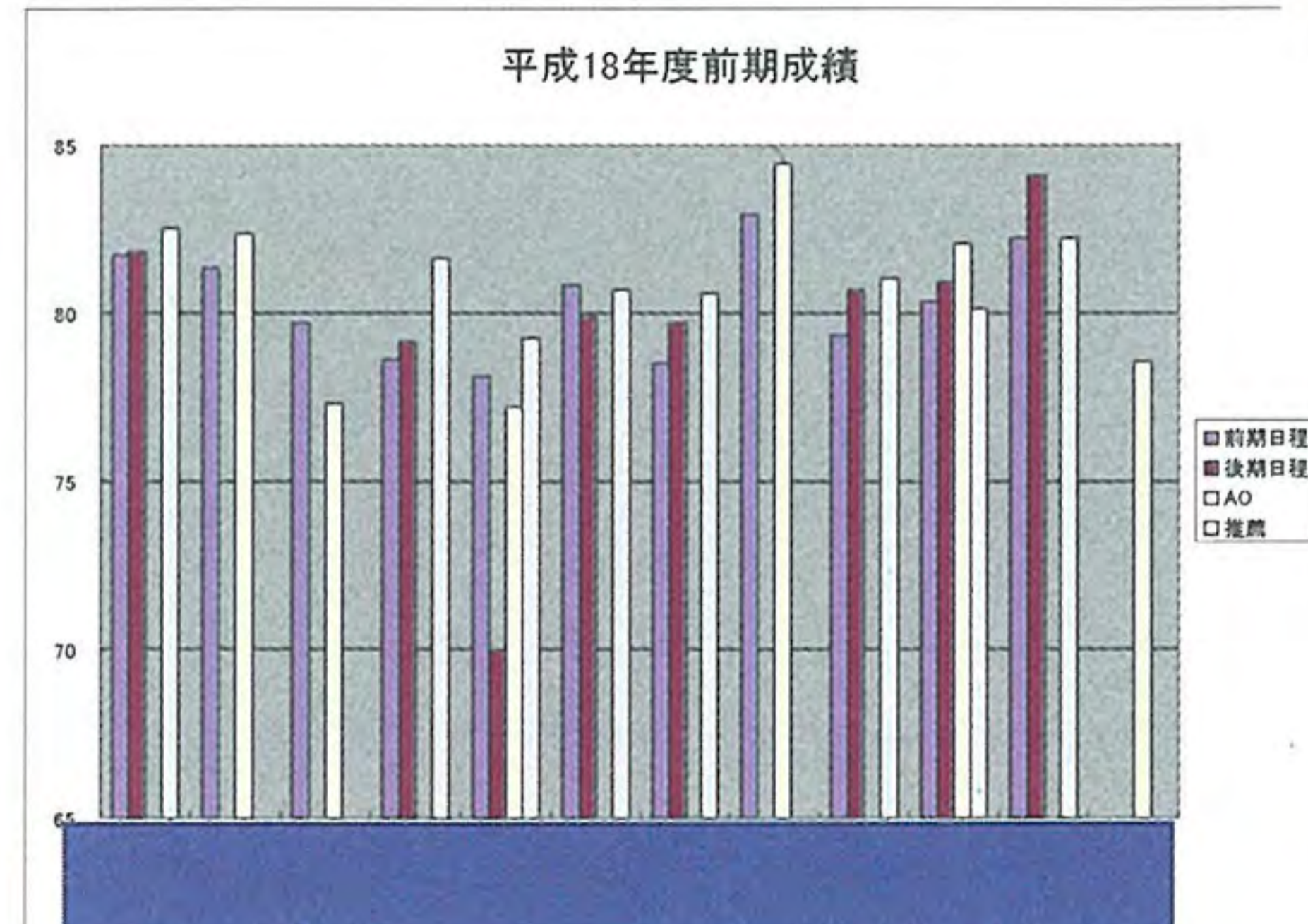




岡山大学

追跡調査 (AO選抜一期生、半年後)

平成18年度前期成績

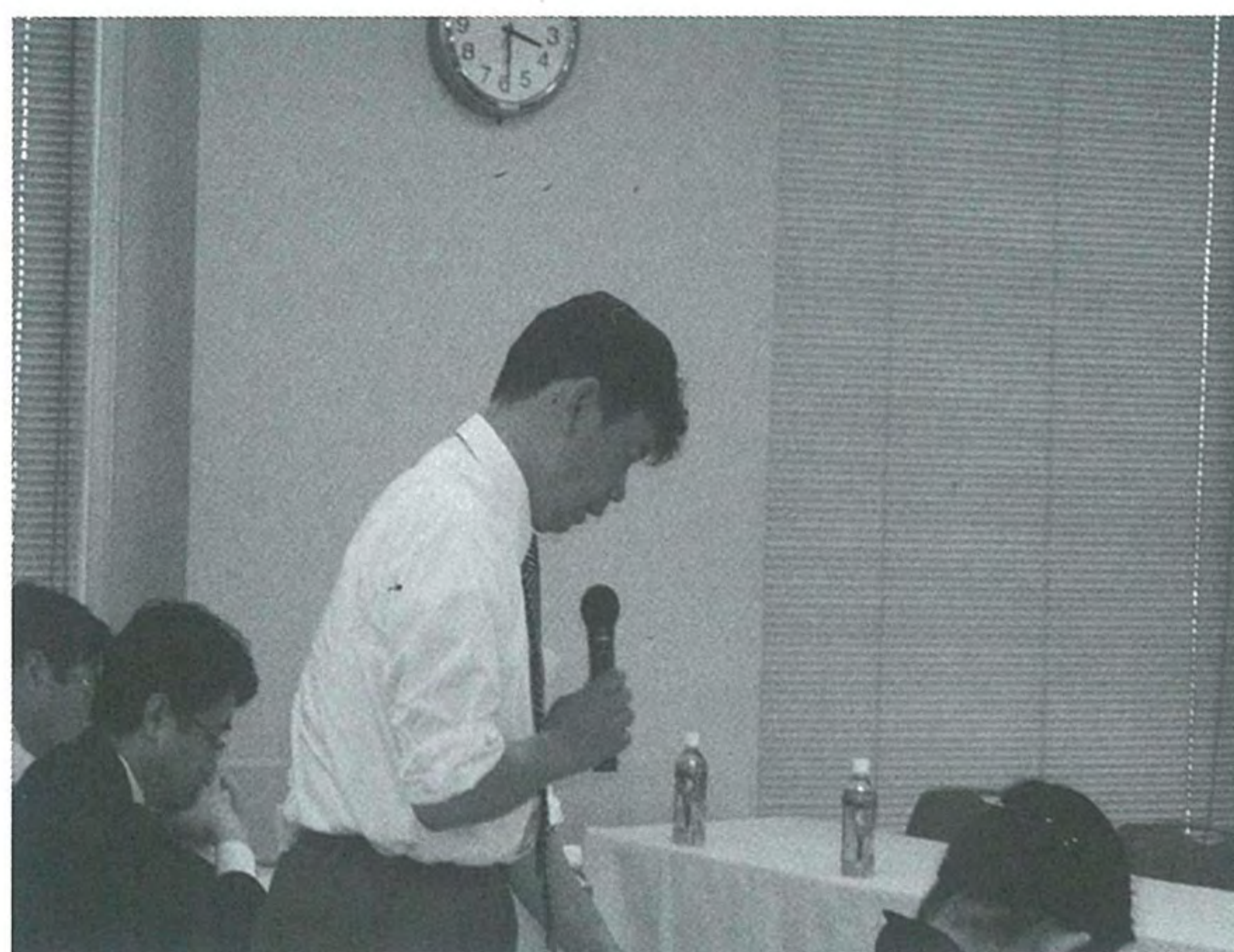


岡山大学

会場風景



垂水教授の発表



質疑応答の様子



各大学からの問題提起や質問の様子



国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

制 定 平成15年6月4日

最終改正 平成20年5月25日

(名 称)

第1条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

(目 的)

第2条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

(構成員)

第4条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、次に掲げる機関とする。

北海道大学高等教育機能開発総合センター

旭川医科大学入学センター

岩手大学大学教育総合センター

東北大学入試センター

茨城大学入学センター

筑波大学アドミッションセンター

横浜国立大学大学教育総合センター

福井大学アドミッションセンター

富山大学アドミッションセンター

静岡大学全学入試センター

京都工芸繊維大学アドミッションセンター

鳥取大学入学センター

岡山大学アドミッションセンター

広島大学入学センター

山口大学アドミッションセンター

香川大学アドミッションセンター

愛媛大学アドミッションセンター

高知大学アドミッションセンター

九州大学高等教育開発推進センター
長崎大学アドミッションセンター
鹿屋体育大学アドミッションセンター

- 3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役員)

第5条 本会に以下の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 事務局長 1名
- 三 運営委員 各加盟機関からの代表 1名
- 四 幹事 運営委員の中から会長の委嘱 6名

- 2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は2年とし、再選を妨げない。
- 3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

(役員の仕事)

第6条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

- 2 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。
- 3 運営委員は、本会の運営に携わる。

(事務局)

第7条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

- 2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑則)

第8条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附則

この会則は、平成17年6月1日から施行する。

附則

この会則は、平成18年5月31日から施行する。

附則

この会則は、平成19年5月29日から施行する。

附則

この会則は、平成20年5月25日から施行する。

国立大学アドミッションセンター連絡会議役員 2008年度

会 長：柴田洋三郎（九州大学理事・副学長）
 事務局長：武谷峻一（九州大学高等教育開発推進センター教授）
 運営委員：下表
 幹 事：下表の網掛けで表示

国立大学アドミッションセンター連絡会議 運営委員

大学名	氏名	役 職 名
北海道大学	加茂直樹	高等教育機能開発総合センター入学者選抜研究部長
旭川医科大学	坂本尚志	入学センター副センター長
岩手大学	永野拓矢	大学教育総合センター准教授
東北大学	石井光夫	高等教育開発推進センター教授
茨城大学	池谷文夫	入学センター長
筑波大学	白川友紀	アドミッションセンター長
横浜国立大学	上ノ山 周	大学教育総合センター入学者選抜部門長
福井大学	大久保 貢	アドミッションセンター准教授
富山大学	上田 一郎	アドミッションセンター入試情報広報室長
静岡大学	寺下 榮	全学入試センター長
京都工芸繊維大学	大嶋知之	アドミッションセンター教授
鳥取大学	森川 修	入学センター准教授
岡山大学	垂水共之	アドミッションセンター副センター長
広島大学	杉原敏彦	入学センター長
山口大学	富永倫彦	アドミッションセンター長
香川大学	真鍋芳樹	アドミッションセンター副センター長
愛媛大学	井上敏憲	アドミッションセンター副センター長
高知大学	八木文雄	アドミッションセンター長
九州大学	武谷峻一	高等教育開発推進センター教授
長崎大学	吉村 宰	アドミッションセンター准教授
鹿屋体育大学	児玉光雄	アドミッションセンター長

編集後記

- 第6回総会でいただきました本会議の柴田洋三郎会長、文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室の先崎卓歩室長のご挨拶と、岡山大学アドミッションセンター垂水共之副センター長のご報告を掲載させていただきました。
- 会長、来賓の挨拶では、昨今の政府関係会議等での大学入試を巡る議論が紹介されて、AO入試の学力の担保や高大接続テスト（仮称）のお話等があり、少子化や大学全入時代における入試のあり方、アドミッションセンターの役割に関する示唆をいただきました。
- 岡山大学アドミッションセンターの垂水副センター長のご報告では、岡山大学の沿革や概要、地の利の話から、同センターの任務・業務、調査研究などを紹介いただきました。ご専門が統計学ですので調査研究のお話を詳しくされましたが、長年行われている入学者アンケートに基づく結果として「第3志望で入った学生の成績が低い訳ではない」というのが印象的でした。これは、言わずもがなですが、入学後の教育が大事だということでしょう。
- 総会の際に撮影いたしました写真も掲載させていただきました。
- 本格的な冬に入りました。今年の冬は長期予報によるとほぼ平年並みだということだそうですが、昨今の地球規模の気象変動でどう転ぶか油断は禁物です。これから3月まで、国立大学では一般選抜を中心に入試本番となります。みなさま大変お忙しいことと存じますが、新年度に向けてご健勝をお祈り致します。
- 最後に、私事ですが、私、この3月をもって九州大学を定年退職いたします。加盟大学の先生方には、長年にわたって暖かいご指導・ご鞭撻とご交誼をいただきました。この場を借りまして、心から深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(事務局 武谷峻一)

第7回総会 開催案内

平成21年度の国立大学アドミッションセンター連絡会議の第7回総会を、次のように開催いたします。

日時 平成21年5月19日（火）13時～15時（予定）

場所 学術総合センター 中会議場1・2

東京都千代田区一ツ橋2-1-2

なお、この連絡会議総会終了後の15時から、同センター・一橋記念講堂で大学入試センター主催の入試研究セミナーが開催される予定です。また、翌日から2日間（5月20日（水）～21日（木））学術総合センターにおいて平成21年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第4回）が開催される予定です。

国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース 第6号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議
編集：九州大学アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
TEL:092-642-4486 FAX:092-642-4485